連載〈まつやま　人・彩時記〉⑨

松山の電話開通の功労者

浅野市長と赤木松山郵便局長

元四国郵政研修所長
伊予史談会会員　山崎　善啓

一、松山の電話架設運動の発端

松山に初めて電話機が登場したのは、明治二一年（一八八八）、伊予鉄道開通に伴って松山・三津口・三津の各駅を結ぶ鉄道専用電話であった。この電話は電話線で各駅を結び、電話機につないだだけのものであった。

電話交換事務は、明治二三年に東京・横浜で、二六年に大阪・神戸でそれぞれ開始されたが、松山など地方都市ではまだ話題にものぼらなかった。

明治三四年（一九〇一）四月、松山商工会議所会頭仲田伝之臈は市内の官庁・会社・銀行等に専用電話が設けられるのに刺激されて、会議所の総会に図り、電話交換所設置の陳情書を議決して逓信大臣に送付した。これが松山における電話交換開設運動の発端であった。ところが、このころ人々の関心も薄かったのか、いつの間にか忘れ去られてしまっていた。

二、浅野市長の電話架設運動

明治三五年二月、温泉郡長であった浅野長道は、市会で推されて第三代松山市長に就任した。浅野長道（一八五六～一九一三）は、明治一〇年愛媛県師範学校を卒業後、教師となったが、のち官界に入り、郡役所書記、神奈川県属などを経て、三二年から温泉郡長であった。

三代市長　浅野長道

松山では、明治三〇年代前半に官庁・会社等の専用電話が、次のように架設されていた。

検事局・監獄・県警察部間　24年
貯蓄銀行・出張所間　33年
商業銀行・出張所間　34年

浅野市長は、この専用電話の利便さに着目し、市と県の間に電話架設を計画し、三七年九月逓信省に出願、三八年二月開通した。

このころ、日露戦争開戦・俘虜の受入など、市役所の事務は激増し、県庁との連絡交渉が頻繁となっていたが、専用電話の開通は迅速な事務処理に大きく貢献した。

三八年ころには、四国各県の県庁所在地で、電話を架設しようとする動きが表面化した。浅野市長はこの流れに遅れまいと、同年一二月、開会中の市会に「電話架設請願の件」を上程した。

▲電話架設請願の件

電話架設之儀に付請願

通信機關の整否は商工業の消長に至大の關係を有するは今更言を俟たざる所なり本市の如きは逐年商工業發達の域に進み貨物の集散人士の來往益々頻繁を加へ殊に戰後の經營として企業を計畫するもの尠からず隨て通信愈々敏活を要し單に郵便電信のみに依る能はざるの狀況を呈し尚電話の架設は最も緊急の事に屬せり而して市民は各其私財を投ずるも之が架設を期せんとするの折柄特設電話規則の發布あり啻に其目的を達するに庶幾きを喜び將に企畫する所あらんとしたるに該特設電話なるものは未規模の施設を以て足る地にのみ設置するものにして本市の如き戸數壹萬餘弱の市街地に對しては之に準據するを得ざるものなるを聞き大に失望したり然るに本市電話は如上の急施を要し一日も緩んする能はざるの實況にして市民が之を翹望するの情は言辭の能く盡す所にあらざるなり頃日仄に聞く所に依れば貴省に於ては電話架設擴張費として明治三十九年度に於て金貳百萬圓を計上せられたりと果して然らば特に此費金の内を以て本市にも電話架設あらんことを切望の至に堪へず茲に松山市會の決議を經て請願仕候也

明治三十八年十二月二十三日

愛媛縣松山市參事會
愛媛縣松山市長　浅野　長道

逓信大臣　大浦兼武殿

通信大臣あて提出の松山市請願書（明治38.12.26 海南新聞）

この原案は直ちに可決されたが、浅野市長は単に請願書送付にとどめず、あらゆる手段を尽し、必成を期して取り組む決意を表明した。

翌三九年一月、浅野市長は監督局の高松郵便局長を訪ね、大臣に請願書提出の経緯を説明して、松山に電話の早期開通を訴えた。

そのころの高松・徳島・高知の三市は、既に活発な電話架設運動を進めており、松山は一歩立ち遅れていた。この情報を得た浅野市長はこの際上京し、逓信省に直接陳情しようと意を固めた。

翌二月、浅野市長は御手洗・大政両参事会会員を伴って上京し、逓信省に小松通信局長を訪ね直接陳情した。小松局長は松山の必要性を理解してくれたが、「中国から四国に通ずる海底電話線敷設は、経費面から最も距離の短い香川・岡山間にしたい。そこでまず、高松に架設して、ここを四国電話の起点として順次架設する方針である。松山もできれば四〇年度に架設したい」とのことであった。

浅野市長は、さらに同年六月上京の際逓信省に赴き、四〇年度予算計上実現を固めるため、電話架設に要する敷地や材料費を寄付したいと申し出た。

四〇年三月開催の市会には、「本市電話架設に要する敷地及び建設材料費（五千円）寄付に関する件」が上程され、満場一致で可決された。

四月早々には、逓信省から四〇年度架設に決定の旨通知された。浅野市長は、三年越しの運動がついに成功したことを関係者とともに喜んだ。この朗報は、たちまち街中にひろがり、市長に祝意を表して訪れる市民も現れたりした。

六月には、市長及び市参事会員が発起人となって「松山電話期成同盟会」（幹事長浅野市長）を組織

松山の電話開通の功労者

浅野長道と赤木　幹

して、電話加入希望者の受付を始めるなど諸般の準備を進めた。加入希望者は、開通予定一二〇を大幅に上廻る三〇〇余りにも達し、期成同盟会をあわてさせた。

浅野市長の任期は、四一年二月までであった。彼の任期中は、日露戦争と俘虜収容所問題など多事多端な六年間であった。特にその間、市の電話架設運動には陳頭指揮で取り組まれ、開通を達成させた業績は高く評価されるべきであろう。しかし、電話開通を目前に控えて退官の日を迎えたことは、少々寂しかったのではなかろうか。

三、赤木松山郵便局長の活動

赤木幹松山郵便局長は、三九年九月、東京の三田郵便局長から着任した。彼が着任したころ、松山の電話は四〇年度着手の見込みというだけで、これからの問題が山積していた。

四〇年四月、正式決定後直ちに高松郵便局から工務課長が来松し関連工事の打合せをした。敷地の買収計画については、浅野市長に協力要請した。赤木は電話期成同盟会の運営について、何かと助言するなど、市長・市会とも連携して円滑な進ちょくに努めた。

電話の当初加入枠一二〇を一八〇に拡大したのも浅野市長の要請を受けた赤木局長が、各方面に積極的に働きかけ実現したものだった。

電話開通は、当初計画では四〇年末を予定していたが、資材が揃わず、大幅に遅れてしまった。赤木局長は、開通済の高松や徳島に、余剰資材を照会して松山に廻してもらった。

松山局では、七月から電話加入申込みの受付を開始し、期成同盟会から一括加入申込みを受けた。八月には「電話加入登記順番号通知書」を発送した。加入者は古町に四三、外側に一三七、計一八〇で、うち官庁会社等は四三か所であった。加入者の一番から一五番までを記すと次のとおり。

番	
1	松山市役所
2	農工銀行
3	藤岡旅館
4	絣商　村上孝次郎
5	弁護士　天野義一郎
6	大野銀行
7	伊予鉄道㈱
8	仲田銀行
9	松山米穀取引所
10	松山紡績会社
11	愛媛県庁
12	亀田屋席
13	弁護士　藤野政高
14	亀井呉服店
15	伊予水力電気㈱

こうして、事務処理と機械・電話線工事等も順調に進みながら困ったことができた。それは肝心の電話機が到着していなかった。この時期、電話機は外国から輸入していたが、神戸に陸揚げされた電話機のうち、松山送付分が誤って東京へ送られていた。赤木局長は、電報で各地と連絡をとり、やっと所在をつきとめ、現品が松山に到着したのは四一年二月中旬であった。全戸への取付には、約二週間を要し、三月はじめにようやく完了した。

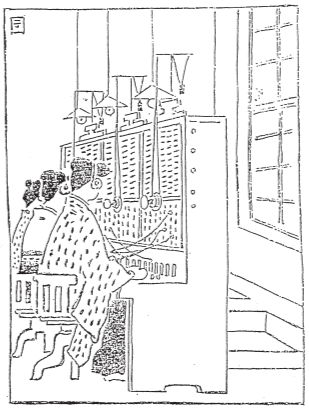
四、電話開通と祝賀会

松山郵便局では、三月はじめ電話交換手一二名の採用を決定した。応募者は三五名、学科試験・面接試験・身体検査に合格した二一歳以下の女子で、新しいビジネスガールの登場であった。

こうして着々準備をすすめ、三月二六日開通と決定した。一五日からは全加入者に試験通話を始めた。加入者は全く初めての電話使用であるから、当分なれてもらうために苦労があった。

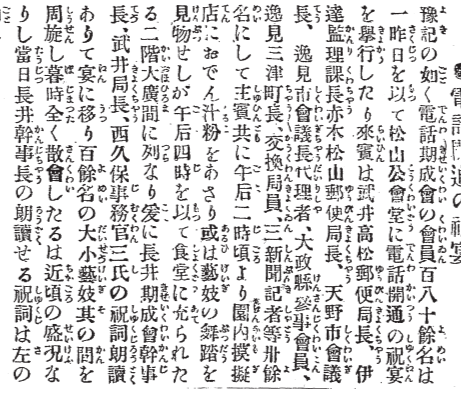
このほか、松山・三津浜・高浜・道後・古町の各郵便局及び伊予鉄道松山駅（現市駅）に公衆電話を設置して、ここから各加入者に通話できるようにした。

三月二六日、市民待望の電話が開通し、市内各戸では国旗を掲げて祝意を表した。松山郵便局前と公会堂前には大アーチを作り、商店街には飾りを施して祝賀ムードを盛り上げた。同日の愛媛新報は「本日は市民諸君が多年の熱望を達せし日なれば、その歓喜思うべし。電話の開通はその加入者諸君の利益のみにあらずして松山市の発展に大関係を有するものなるが故に市民諸君一般にも之を祝することなるべし。ああ、文明の利器の一なる電話は本日を以て備われり」と祝意を表した。



松山局電話交換風景
（明治41.3.25 海南新聞）

電話開通祝賀会は、来賓と期成同盟会の会員合せて二百十余名が公会堂に参集し、盛大に挙行された。この席には、高松・松山の郵便局関係者、浅野前市長なども招かれた。この祝宴は、松山において最近見られないほどの盛況であった。



電話開通の祝宴

豫記の如く電話期成會の會員百八十餘名は一昨日を以て松山公會堂に電話開通の祝宴を擧行したり來賓は武井高松郵便局長、伊達監理課長赤木松山郵便局長、天野市會議長、逸見市會議長代理者、大政縣參事會員、逸見三津町長、交換局員、三新聞記者等卅餘名にして主賓共に午后二時頃より園内模擬店におでん汁粉をあさり或は藝妓の舞踏を見物せしが午后四時を以て食堂に充られたる二階大廣間に列なり爰に長井期成會幹事長、武井局長、西久保事務官三氏の祝詞朗讀ありて宴に移り百餘名の大小藝妓其の間を周旋し暮時全く散會したるは近頃の盛況なりし當日長井幹事長の朗讀せる祝詞は左の如し

祝詞

松山市電話架設工事茲に竣成を告げ開通を擧り官紳士本日光臨を辱ふす祝賀の典を擧ぐる會の深く幸榮とする所なり惟ふに通信機關の整否は商工業の消長に至大の關係を有するは言を俟たざる所なり今や本市境域の擴張は近く其の施工を見んとするのみならず時恰も工業諸會の秋に當り市民多年の社の宿望たる處なり然りと雖も文化の進運に逢へ開通の福に堪へざる運なり吾人一日の猶來漸に祝賀の興を見て逐ふて加入者の數も既に一百を超へ尚ほ增加の傾向あり冀くば開通の日の遠からんことを期す

松山市電話期成同盟會幹事長　長井政光

電話開通の祝宴記事（明治41.3.28 愛媛新報）

※参考文献……『四国電信電話事業』誌、『海南新聞』、『愛媛新報』